

# 多摩地域のアクティブ・シニアの実態調査

## A Study of Survey for Active Seniors in Tama Area

共同研究メンバー

○久保田貴文\*、今泉忠\*、出原至道\*、佐藤洋行\*（○代表、執筆者）

**Keywords** : gerontology, active senior, correlation analysis

### 1. 研究目的

日本におけるシニア（高齢者、WHOの定義に従い65歳以上とする）の構成は、ケア・シニア、ギャップ・シニア、ディフェンシブ・シニア、そしてアクティブ・シニアに分けられ、2020年の推計では3600万人（内訳は概ね2:3:3:2の割合）とされている。シニアマーケティングで成功するためにも、まずは、対象となる構成割合をもとにそこからどのようなニーズ（順に、介護・準備・回復・行動）が必要なのか見極める必要がある。（株式会社日本SPセンター、2019）

これらの構成割合については、「日本における推計」であり、その定義は、主に「収入と身体的自由度によるもの」である。本学部として多摩地域（もしくは多摩市、以降単に多摩地域という）を対象とする場合には、多摩のそれが日本全体と同一であるのか異なるのかを確認する必要がある。

そこで本研究では、多摩地域におけるシニアの構成についてその実態を調査し、他の関連するプロジェクトに資するエビデンスとすることを主たる目的とした。

### 2. 研究概要

多摩の実態を調査して、多摩市（2014）についてジェロントロジー研究会で報告した。

また、多摩地域におけるアクティブ・シニアの現状を把握するために、東京23区の都心部（東京）、多摩地域（多摩）およびそれ以外の大都市を含まない田舎地域（田舎）の3区分に地域を対象として、Webによりパネル調査を行った。田舎としては、大都市圏から隔離された地域、特に過疎地域におけるサービスやその地域での生活の実態を比較調査するために、東京から遠方のいわゆる大都市（50万人以上）を含まない都道府県を設定した。質問した項目については、主観的な状況に関連することとして、主観的幸福感、不安の程度・要因、精神的健康状態などについて、また、生活に関連することとして、今後の生活の見通し、力点、心・モノの豊かさなどについて、さらに、デモグラフィックな要因として出身地、学歴、家族構成、経済状況な

\* 多摩大学経営情報学部 School of Management and Information Sciences, Tama University

どを聞いた。(以降、多摩ジェロントロジーパネル調査)

### 3. 分析結果

多摩ジェロントロジーパネル調査の結果を集計し、特に本研究と関連のある介護の状況と、働くこと・収入のことに関連する以下の項目について地域ごとの集計を行った。

- ・ 介護関係
  - ・ F1：あなたの家族で要介護（要支援）が必要な方はいますか。
- ・ 収入関係
  - ・ F5：あなたの収入源はなんですか。
  - ・ F6：あなたご自身の1年間の収入について教えてください。
  - ・ F7：あなたの世帯での1年間の収入について教えてください。
- ・ 働く頻度
  - ・ Q7：あなたはどのくらいの頻度で働いていますか。
  - ・ Q8：あなたの配偶者はどのくらいの頻度で働いていますか。

表1は、介護・看護に関する質問のうち、「あなたの家族で要介護（要支援）が必要な方はいますか。」に対して、「あなた」もしくは「あなたの家族」の回答（1. はい）と、「家族にはいない」の回答（2. いいえ）を地域別にクロス集計した結果である。この結果から、多摩地域には家族の中に要介護もしくは要支援が必要な方が少ないことが言える。

表1 あなたの家族で要介護（要支援）が必要な方はいますか。に対する地域ごとのクロス集計の結果  
(以降、数字は度数、カッコ内は列の割合（ただし、合計の列の割合は地域ごとの割合）を示す)

|    |      | 家族の中で要介護もしくは要支援が必要な方がいますか |             |              |
|----|------|---------------------------|-------------|--------------|
|    |      | 1.はい                      | 2.いいえ       | 合計           |
| 地域 | 1.東京 | 41 (12.5%)                | 288 (87.5%) | 329 (33.2%)  |
|    | 2.多摩 | 33 (10.0%)                | 297 (90.0%) | 330 (33.3%)  |
|    | 3.田舎 | 63 (18.9%)                | 270 (81.1%) | 333 (33.6%)  |
| 合計 |      | 137 (13.8%)               | 855 (86.2%) | 992 (100.0%) |

次に、表2-1、表2-2および表2-3は収入関係の質問のうち、順に「あなたの収入源はなんですか。」に対して、「就業収入」の回答（1. 就業収入）と年金や預貯金などの収入（2. それ以外）の地域ごとのクロス集計の結果、「あなたご自身の1年間の収入」に対して、「0円」（0. 0円）、「1円～200万円未満」（1. 200万円未満）、200万円以上（200万円以上）、「わからない」（3. わからない）の地域ごとのクロス集計の結果、および「あなたの世帯での1年間の収入」に対して、「0円」（0. 0円）、「1円～200万円未満」（1. 200万円未満）、200万円以上（200万円以上）、「わからない」（3. わからない）の地域ごとのクロス集計の結果をまとめたものである。この結果から、東京と多摩には大きな差はないものの、田舎地域は前者2つの地域と比べて、就業収入の割合が少ないことが言える。また、自身のおよび世帯の収入について、200万円以上の割合は3つの地域の中で多摩地域が最も大きな割合であることが言える。

表 2-1 「あなたの収入源はなんですか。」に対する地域ごとのクロス集計の結果

|    |      | あなたの収入源はなんですか |             |              |
|----|------|---------------|-------------|--------------|
|    |      | 1.就業収入        | 2.それ以外      | 合計           |
| 地域 | 1.東京 | 77 (23.4%)    | 252 (76.6%) | 329 (33.2%)  |
|    | 2.多摩 | 73 (22.1%)    | 257 (77.9%) | 330 (33.3%)  |
|    | 3.田舎 | 62 (18.6%)    | 271 (81.4%) | 333 (33.6%)  |
| 合計 |      | 212 (21.4%)   | 780 (78.6%) | 992 (100.0%) |

表 2-2 「あなたご自身の1年間の収入」に対する地域ごとのクロス集計の結果

|    |      | あなたご自身の1年間の収入 |             |             |            |              |
|----|------|---------------|-------------|-------------|------------|--------------|
|    |      | 0.0円          | 1.200万円未満   | 2.200万円以上   | 3.わからない    | 合計           |
| 地域 | 1.東京 | 9 (2.7%)      | 71 (21.6%)  | 219 (66.6%) | 30 (9.1%)  | 329 (33.2%)  |
|    | 2.多摩 | 4 (1.2%)      | 63 (19.1%)  | 233 (70.6%) | 30 (9.1%)  | 330 (33.3%)  |
|    | 3.田舎 | 10 (3.0%)     | 84 (25.2%)  | 202 (60.7%) | 37 (11.1%) | 333 (33.6%)  |
| 合計 |      | 23 (2.3%)     | 218 (22.0%) | 654 (65.9%) | 97 (9.8%)  | 992 (100.0%) |

表 2-3 「あなた世帯での1年間の収入」に対する地域ごとのクロス集計の結果

|    |      | あなたの世帯での1年間の収入 |           |             |             |              |
|----|------|----------------|-----------|-------------|-------------|--------------|
|    |      | 0.0円           | 1.200万円未満 | 2.200万円以上   | 3.わからない     | 合計           |
| 地域 | 1.東京 | 2 (0.6%)       | 20 (6.1%) | 268 (81.5%) | 39 (11.9%)  | 329 (33.2%)  |
|    | 2.多摩 | 1 (0.3%)       | 11 (3.3%) | 276 (83.6%) | 42 (12.7%)  | 330 (33.3%)  |
|    | 3.田舎 | 2 (0.6%)       | 29 (8.7%) | 254 (76.3%) | 48 (14.4%)  | 333 (33.6%)  |
| 合計 |      | 5 (0.5%)       | 60 (6.0%) | 798 (80.4%) | 129 (13.0%) | 992 (100.0%) |

最後に、働く頻度として、表 3-1 には「あなたはどのくらいの頻度で働いていますか」に対して、「働いていない」(0. 働いていない)、「週に1日より低い頻度 (1. 週1日以下)」、「週2～4日」(2. 週2-4日)、「週5日以上」(3. 週5日以上) 地域ごとのクロス集計の結果をまとめたものであり、表 3-2 は同様にあなたの配偶者の同内容の頻度の結果である。ただし、後者には「配偶者なし」を含む。これより、自身の働く頻度については、東京地域が週5日以上の割合が最も大きかったのに対して、多摩地域は週2～4日の割合が大きかった。また、配偶者の働く頻度については、多摩地域が働いていない割合が最も大きかった。

表 3-1 「あなたはどのくらいの頻度で働いていますか」に対する地域ごとのクロス集計の結果

|         | あなたはどのくらいの頻度で働いていますか |           |             |             |              |
|---------|----------------------|-----------|-------------|-------------|--------------|
|         | 0.働いていない             | 1.週1日以下   | 2.週2-4日     | 3.週5日以上     | 合計           |
| 1.東京    | 138 (41.9%)          | 15 (4.6%) | 50 (15.2%)  | 126 (38.3%) | 329 (33.2%)  |
| 地域 2.多摩 | 156 (47.3%)          | 12 (3.6%) | 59 (17.9%)  | 103 (31.2%) | 330 (33.3%)  |
| 3.田舎    | 167 (50.2%)          | 12 (3.6%) | 41 (12.3%)  | 113 (33.9%) | 333 (33.6%)  |
| 合計      | 461 (46.5%)          | 39 (3.9%) | 150 (15.1%) | 342 (34.5%) | 992 (100.0%) |

表 3-2 「あなたの配偶者はどのくらいの頻度で働いていますか」に対する地域ごとのクロス集計の結果

|         | あなたの配偶者はどのくらいの頻度で働いていますか |           |             |             |             |              |
|---------|--------------------------|-----------|-------------|-------------|-------------|--------------|
|         | 0.働いていない                 | 1.週1日以下   | 2.週2-4日     | 3.週5日以上     | 配偶者なし       | 合計           |
| 1.東京    | 125 (38.0%)              | 8 (2.4%)  | 48 (14.6%)  | 61 (18.5%)  | 87 (26.4%)  | 329 (33.2%)  |
| 地域 2.多摩 | 174 (52.7%)              | 10 (3.0%) | 44 (13.3%)  | 48 (14.5%)  | 54 (16.4%)  | 330 (33.3%)  |
| 3.田舎    | 144 (43.2%)              | 12 (3.6%) | 38 (11.4%)  | 66 (19.8%)  | 73 (21.9%)  | 333 (33.6%)  |
| 合計      | 443 (44.7%)              | 30 (3.0%) | 130 (13.1%) | 175 (17.6%) | 214 (21.6%) | 992 (100.0%) |

#### 4. 総括

本研究では、共同研究の中で、多摩地域におけるシニアの構成についてその実態を調査をするという主目的に対してその集計結果をまとめて考察した。高齢者の ICT の利活用について、「アクティブ」なシニアをとらえるためには調査が必要であるため、今後の課題としたい。

#### 参考文献

- [1] 株式会社日本 SP センター (2019)、シニア市場に特化した調査・分析・企画・コピーライティング・デザイン、「シニアって誰？」 URL : <http://www.nspc.jp/senior/who/> (参照日 : 2019 年 9 月 20 日)
- [2] 多摩市 (2014)、多摩市高齢者実態調査報告書 平成 26 年度版